

教育

edu@asahi.com

金曜～月曜掲載

頑張った私 データで蓄積

主体性を評価 大学入試へ活用探る

大学入試で受験生の「主体性」をどのように評価するか。文部科学省の委託を受け、この課題に取り組んできた関西学院大など8大学が、生徒一人ひとりの活動歴を電子データで蓄積する仕組みをつくった。2018年度の入試でそのデータを使った実証事業を経て、本格稼働の道を探る。

大学の入学者選抜について、文科省は「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価するよう求めている。特に推薦入試やAO入試に比べて受験者が多い一般入試は、知識や技能を問うものに偏りがちとされる。一般入試でも主体性を積極的にみるため、文科省は高校の調査書の活用を大学に呼びかけてきたが、「十分利用されているとはいえない」（同省担当者の現状）。

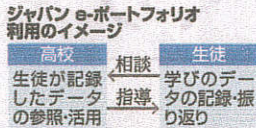
高校「校外活動も把握できそう」

8大学が構築したのは、「ジャパンe-ポートフォリオ」。今年度は高校1、2年生が対象だ。18年度に行う入試では、100大学程度の利用を見込む。生徒は、実験や野外学習の記録、コンクールの結果といった探究活動、部活動の成績や役職、留学・海外経験、取得した資格などの8種類のデータをスマートフォンなどで入力。その際、賞状など証となるものをスマホのカメラなどで撮影して添付する。取り組んできた学び

や活動を蓄積することで振り返りが可能になり、その後の学びや進路選択に生かせる。大学へのインターネット出願にも使えるようにする考えだ。データは生徒ごとにIDとパスワードで管理する。教員向けの画面で入力状況が把握できるため、蓄積されたデータを調査書など入試の提出書類の作成に役立てられ、教員の負担軽減にもつながる想定だ。ベネッセコーポレーションに委託し、同社のシステムを利用する。一方、大学側はそれぞれの方針に基づいてデータを活用する。たとえば、▽データを得点化し筆記試験との合計点で合否を判定する▽出願条件を満たしているかどうかを判定▽筆記で当落線上の生徒について主体的活動への期待度の評価に使うなどが考えられる。

一方、高校生活のポイント集めに陥らないか、結果に結びつかなかった主体性をどれだけみ取れるか、といった課題は残る。代表大学の関西学院大の担当者は「失敗した生徒のほうがいろんな問題に気づく可能性があり、探究活動では気づきなどのプロセスも入力できるようにした。大学によるプロセス評価に道を開くものだ」と話す。

◆感想や、教育に関する情報をお寄せ下さい。edu@asahi.comまたはFAX03・3542・4855へ。



- 記録できる学びのデータ
- 探究活動
 - 生徒会・委員会
 - 学校行事
 - 部活動
 - 学校以外の活動
 - 留学・海外経験
 - 表彰・顕彰
 - 資格・検定

大学へのインターネット出願



「ジャパンe-ポートフォリオ」の画面を見る生徒。東京立正高校提供

私立東京立正高校（東京都杉並区）は、「ジャパンe-ポートフォリオ」を12月中旬にも導入する。同校は3年前、生徒一人ひとりの授業に取り組み姿勢や模試の結果などの記録を一括管理するベネッセとソフトバンクのシステム「Classi」を使い始めた。生徒自身が自分の学習時間などを入力していたため、生徒も教員も抵抗なくe-ポートフォリオを利用できるとみる。

利点の一つは、何に打ち込んできたかを生徒も教員も振り返りやすくなることだ。澤田幸雄校長は「進みたい大学の学部や学科が明確になるのでは」と話す。国語科の沼田早紀教諭は、調査書作成のため、これまでアンケートで生徒の活動を把握してきたが、「個人で受けた検定など学校の活動もアンケートなどで把握できて」と期待する。

「厳格な情報管理」のほか、「確実に入力させること」も課題だ。実際、「クラッシー」に

も勉強時間などを入力しないケースもあり、「頑張っている活動なら、入力しないと自分が困る」と伝えたという。

3年の佐藤颯君(18)は「高校生活を通して頑張った活動を、積極的にアピールして評価されるのはいいことだと思う」と話した。(片山健志)